

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500156		
法人名	株式会社 まつもと		
事業所名	グループホーム心音		
所在地	山口県周南市大字久米3146番地		
自己評価作成日	令和2年4月10日	評価結果市町受理日	令和2年10月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査日	令和2年5月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名のご入居者さんと職員で支えられる側、支える側が家族のように日々の生活を送っています。食事の支度や片付け洗濯といった家庭では主婦が行う事を、個々人の能力に応じて出来る事を一緒にしています。ホーム内で3食作り、職員も一緒に同じものを食べます。ご家族のご希望があれば、身体が状況が低下し寝たきりになっても医療連携である高木内科クリニックの高木医師のご協力で見取りも対応させて頂き、職員も共に生活した家族として、人生の最期に寄り添い自分たちに出来る事・ホームで出来る事を支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は利用者の希望を聞かれ、旬の食材や差し入れの野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをしておられ、利用者の状態に合わせて形状の工夫をされています。利用者は米を砥ぐ、野菜を切るなどの下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にされています。利用者と職員は、同じ食卓で同じ物を食べながら食事を楽しまれています。運営推進会議には自治会長、自治会防災部長、自治会員、民生委員、第三者委員、介護相談員、駐在所職員など多くの地域メンバーの参加を得ておられ、活発な意見交換をされて、そこでの意見をサービス向上に活かされています。災害対策として、事業所独自で年3回の夜間想定火災時の避難訓練を実施しておられ、運営推進会議時に出席した自治会防災部長の火災時の避難方法の助言を活かされている他、緊急時には連絡網で自治会長や自治会防災部長に通報し、自治会長から自治会全員へ連絡する体制を整えられているなど、災害時の地域との協力体制を築いておられます。自治会に加入され、回覧板を回されたり、職員が地区の清掃活動やゴミステーションの掃除当番を担当しておられる他、近所の人が小さな子どもを連れて来訪されたり、水道管の修理や野菜の差し入れなど、地域の人が気軽に事業所に立ち寄られて利用者で交流しておられ、事業所自体が地域の一員として日常的に交流しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)		1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常の支援を行う中で職員が意識して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。利用者の「安心、安全な生活」を退治西、日常業務の中で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として生活し、自治会の役員・民生児童委員等の方々が運営推進会議のメンバーでもあり交流を図っている。	自治会に加入し、回覧板が回わしたり、ゴミステーションの掃除当番の担当もしている他、職員は年2回の清掃活動にも参加し、地域の人と顔馴染みになっている。近所の人が小さな子どもを連れて来訪したり、運営推進会議の地域メンバーの立ち寄りや水道管の修理、野菜の差し入れがあるなど、地域の人が気軽に立ち寄り利用者と交流している。ボランティア(日本舞踊、ダンス、パソコン)の来訪や理美容師によるカットサービスがあるなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の人々にホーム内の出来事や支援方法を報告し地域貢献できる事業所になるよう努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ガイド集を基に職員で話し合うことで日々の実践を振り返る機会になっている。また評価したことを活かし質の向上に努めている。	ガイド集を基に職員間で話し合い、職員一人ひとりが項目毎に手分けをして記入し、それぞれ回覧して書き加えたものを管理者がまとめ、再度、職員間で話し合っている。自己評価をすることで日々のケアの振り返りとしている。前回の評価結果を受けて、目標達成計画を作成し、緊急時の対応や日常の支援方法や課題、災害時の対応の見直しなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での様子や取り組みを報告し、第三者からの視点で意見や提案を求めサービスの向上に努めている。	自治会長、民生委員(2人)、駐在所、自治会防災委員、自治会会計監査、県会議員(住民代表)、第三者委員(薬剤師)、周南市指導監査室のメンバーの参加を得て、会議は年6回開催している。利用者状況、受診状況、ヒヤリハット・事故報告、災害時の対応などについて報告し話し合っている。夜間休日の災害時の市の対応についての質問があり、防災危機管理室や地域福祉課の電話がつながるとい意見があるなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と報告や相談を行い関係を築き、適切なサービスが提供できるように努めている。	市担当者とは、運営推進会議時や直接出向い相談して助言を得たり、電話で情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議出席時や電話で情報交換したい、相談して助言を得ているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束しないケアに向けて話し合う機会を持ち、実践につなげるよう努めている。	マニュアルを基に、日常業務の中で必要な資料を回覧して話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議に合わせて身体拘束委員会を開催している。玄関は施錠をしないで外出したい利用者とは職員が一緒に出かけている。スピーチロックに気づいた時には管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けて学び虐待のない環境にするため、ご入居者の状態に応じて細目に検討し職員の精神的ストレスが軽減できるように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会は設けているが、活用する機会がなかった事で活かされていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の方向で決まった時に説明をさせてもらい、事前に重要事項説明書や契約書をお渡しし目を通して頂きご契約時に疑問や不安な事に対して理解して頂けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお手紙、メール等で状態をお知らせし、相談や苦情・要望もお聞きできるようにしている。意見が反映できるように職員や運営推進会議で周知させ反映できるように努めている。	契約時に、相談や苦情受付体制、第三者委員、処理手続きについて家族に説明している。介護相談員が定期的に来訪して利用者の思いを聞いている。家族からは運営推進会議参加時や面会時、電話、ラインやSNSでのメッセージ、行事案内送付時、毎月の請求書送付時、事業所だより送付時に意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに関する要望はあるが運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中でその都度要望を伝えたり、勉強会や食事会でも自由に意見し要望を反映するように努めている。	代表者や管理者は申し送り時、電話、勉強会など日常業務のあらゆる場面で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の勤務体制の調整、休暇の取得、夜間時の不安などについて話し合い、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の業務での個々人の実績や勤務状態等を常に把握し、環境や条件の整備を行うよう努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務でその都度疑問や不安があればミニ勉強会のように行っている。外部研修については公休を確保することで現状余裕がないのが実情のため、できるだけホーム内でもスキルアップできるよう取り組んでいるが課題は多い。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は資料を職員間に回覧して共有している。内部研修は、消防署の協力を得て緊急時対応について学んでいる他、高齢者虐待、成年後見制度、むくみ、肺炎、結核などの資料を職員へ配布、回覧して共有に努めている。新人研修は、日常業務の中で1ヶ月間先輩職員の指導を受けて、働きながら学べる様に支援している。資格取得については勤務時間の調整等の支援をしている	・研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	公休の確保や日々の勤務で行えていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が解消できるように説明やご意向を確認し、安心してホームでの生活がスタートできるよう、ご家族やご本人・また関係各所からの情報を基に支援方法を決定し信頼関係を築よう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご意向を確認し安心してもらえるサービスを提供するようにしている。ホーム内での生活の様子を細目に報告し、状況に応じてご家族とも相談しながら関係を築いていくようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご意向や要望を確認し状態を考慮し支援方法を決定している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者としてだけでなく、生活を共にする家族として関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係性が途切れないように共に支えあえる関係づくりをしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や馴染みの人との外出などを支援し関係が途切れないように努めている。また面会時に会話が途切れないよう職員が橋渡しをし有意義な時間になるよう支援している。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人の来訪がある他、ライン動画や年賀状での交流、電話の取り次ぎなどの支援をしている。家族の協力を得ての外出、外食、一時帰宅、墓参りなど、これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や能力等を考慮し穏やかに過ごせるよう座席の位置を決めたり、活動時には移動もできるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節の便りや、命日やお盆等にお参りさせていただいたり、相談事や入居に関しご紹介をいただいたり関係が継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望は日常のちょっとした会話の中で把握するよう努めている把握が困難な場合スタッフがその人の立場になった時どうしたいかを話しあっている	入居時にライフサポートプランの様式に添って、生活歴や趣味、食事形態、アレルギーなどを把握している他、日々の関わりの中での利用者についての気づきなどを処遇日誌に記録し、センター方式を利用して、本人の思いや暮らし方などの希望の把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やライフスタイルは日常生活や会話、ご家族からの情報をもとに把握するよう努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の1人ひとりの心身状態や生活リズムを把握しそれぞれができることが行えるように努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人ひとりの状態を把握し、スタッフ同士で定期的に話し合いを行い、ご家族の要望を取り入れつつ現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態に変化がある場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を記録に残し職員間で情報を共有している、実践し一定期間様子見を行い決定か変更か介護計画の見直しに活かしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、一人一人のニーズに合わせた支援、必要なサービスが提供できるように取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに民生委員、警察、幼稚園等の関係者も居られ協働し生活できるように支援している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	見学時には主治医について説明やご意向を確認している。主治医とは状態の変化や経過の情報交換・相談等を行い支援している。	本人や家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。定期受診時には利用者の情報を口頭で伝えて投薬などの指示を受けている。他科の受診は事業所で支援している。緊急な受診については、電話で結果を家族に伝えている。定期的な受診については面会時や手紙で受診結果を伝えている。必要に応じて訪問歯科診療を受けている。夜間時や緊急時は協力医療機関との24時間オンコール体制で適切な医療がうけられるように支援をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の身体状況や気づき等の情報交換を行い指示を受け、日常の健康管理を協働で管理している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化で起きる混乱を軽減できるように面会に出向き関係を継続させ、早期退院に向け主治医とご家族とで連携し支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学時やサービス提供開始前にはご意向を確認し、ご入居されてからは状態に応じてその都度話し合い最大の支援が出来るように取り組んでいる。	契約時に「利用者の重度化時の対応に関する指針」に基づき、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、看護師と話し合い、看取りや医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	消防署の協力を得て一人一人の状態に応じた緊急時の対応について学ぶ機会を持ち、知識や実践力を身につけるよう努めている。	事例が発生した場合は、その日の職員間で話し合い、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、再発防止策を検討して、職員間で共有している。その後、日常業務の中で対応方法等について一定期間試行し、再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応、インフルエンザ、感染症予防、骨折の対応、窒息の対応等の資料を配布して共有している他、消防署の協力を得て「一人ひとりに合った緊急時の対応」について学んでいるなど、対応について取り組んでいるが、全職員が実戦力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実戦力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバーでもある自治会の防災部長との連携をとり、災害時の避難方法等の情報を共有し地域との協力体制を築いている。	年3回、事業所独自の夜間想定火災時の避難訓練を実施している。運営推進会議で自治会の防災部長から火災時の避難方法について助言を得ている。緊急時は、連絡網で自治会長や自治会防災部長に通報し、自治会長から自治会全員に連絡する体制が整っているなど、地域との協力体制を築いている	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目立たずさりげない声かけや対応に配慮しているつもりだが、いつもできているとは言えない	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言動や対応があれば管理者が指導している。個人情報の管理や取り扱いに留意すると共に、守秘義務について遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションを取り、1人ひとりの特徴を見極め自己決定できるようにしている。意思表示の困難な方は表情や仕草で読み取るようにしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースやケアプランに沿って支援できるよう努めているが、どうしてもスタッフの都合になってしまうこともある		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事がある時には化粧したり、3ヶ月に1回カットサービスをうけている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり盛り付けや食器洗いと、一人一人の能力や状態に応じたお手伝いを一緒に行っている。季節の食材や釣ってきた魚でメニューを工夫し職員も一緒にテーブルで食事をしている。	利用者の希望を聞き、旬な食材や差し入れの野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者の状態に合わせて形状の工夫をしている。利用者は米砥ぎ、下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓で同じ物を食べながら食事を楽しんでいる。季節の行事食(おせち料理や筍料理など)、誕生日のケーキ、稲荷寿司づくり、おはぎづくりを楽しんでいる他、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、活動量や疾病・体重の管理によって調整している。一人一人の状態に応じて箸や食器を使用している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い義歯洗浄や必要な場合は歯科受診をし支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、訴えや仕草等でサインを見逃さずトイレ誘導を行っている。状態や排便状況に応じてパット等を使用している。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや関わり方の工夫をして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の味噌汁には毎日ワカメを使用し、メニューで繊維質や海藻類を取り入れ工夫し、必要に応じて処方薬の服用をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	スタッフの都合で入浴時間が決まってしまうが、順番等を工夫し入浴が楽しめるように配慮して支援している。	入浴は毎日、午前、午後で時間を決めず、その日の行事や利用者の希望、体調に合わせて入浴できるように支援している。職員と会話したり、歌を歌ったり、入浴を楽しめるよう支援している。体調に応じて足浴や清拭、部分浴など個々に対応している他、ゆず湯など季節に応じた工夫をしている。入浴したくない人には声かけの工夫、時間をずらす、職員の交代など、無理強いをせず、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調によって臥床時間を設け、夜間良眠できるように日中の活動や就寝前の活動を行い支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで薬名や効能・副作用等を記録し職員が把握できるようにしている。薬の準備や与薬は職員2名体制にし誤薬を防ぐようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報や生活歴から得意分野で力が発揮できるように努めている。お願い事をした時は感謝の言葉を忘れないようにしている。	テレビの視聴(のど自慢、歌番組)、本を読む、新聞を読む、広告を折る、新聞紙でゴミ袋づくり、貼り絵、折り紙、カルタ、トランプ、脳トレ(計算、漢字)、パズル、輪投げなどのゲーム、生け花、回廊の散歩、ラジオ体操、洗濯物干し、洗濯物たたみ、拭き掃除、米砥ぎ、盛り付け、テーブル拭き、食器洗い、野菜の収穫など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の工夫をして支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出で墓参りや温泉・外食をされているが、ホームでの外出の機会は少なくなっている。	近所の自動販売機のジュースを買いに行く、ポストに郵便物を出しに行く、駐車場での外気浴、他の法人施設でのお茶会への参加の他、家族の協力を得ての外出、外食、買い物、一時帰宅、墓参り、温泉など、利用者に合わせた移動の配慮をしながら、戸外に出かけられるように支援をしている。	・外出支援の工夫
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や置忘れを防ぐため所持されている方は居られないが、ホームでの買い物時には支払いを手伝ってもらう事がある。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お祝い事でプレゼントが届くと電話で話したり、年賀状を書いて関係が途切れないように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者同士で関係性を把握し座席の配置を決めている。また活動する場合は能力にも配慮し、壁紙の作成をし季節感を取り入れている。	玄関には季節の花を飾り、職員の顔写真と名前を掲示して、家族が職員に声をかけやすいように工夫している。大きな窓からの陽ざしでリビングは明るい。室内は回廊式になっていて、利用者の日々の運動に活かしている。大型テレビやゆったり座れるソファを配置し、畳コーナーは利用者が思い思いに過ごすことができる居場所となっている。壁面には利用者が作成した壁紙が飾っており、キッチンからは調理の匂いや音がして生活感を感じることができる。温度や湿度、換気等に配慮して利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい時間や気の合う相手との時間等、思い思いの過ごし方が出来るよう座席の位置を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や寝具等は新たに購入するのではなく、馴染みのある物を持参して頂き安全に生活できるよう配置し状態に応じて変更し居心地よく生活できるように工夫している。	居室の入口には職員が描いた利用者の似顔絵が掛けてある。利用者自身が作成した刺繍をはめ込んだダンス、三段の衣装ケース、テレビ、鏡台、ヘアブラシ、日用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、孫の写真、利用者自身の若い頃の写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の力量や能力を把握し、その力が発揮できる環境を作り混乱を招かない安全で自立した生活が送れるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム心音

作成日：令和 2 年 9 月 10 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	34	ヒヤリハット・事故報告書に転倒の危険性が毎月あがってしまう。転倒は防いでも危険性が有れば見守りが十分ではないという事である。	転倒に繋がる危険性をなくす。	フローを空にしない動きをするためにスタッフ同士の動きを把握し、お互いが声をかけたり順序を考えた動きをする。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。